

湖国が滋る・水と緑の街づくり

月刊



2008/4  
vol.147

平成 20 年 4 月 1 日発行 通巻 147 号  
昭和 40 年 8 月 21 日第 3 種郵便物認可  
発行/社団法人 滋賀県建築士会  
〒 520-0801  
滋賀県大津市におの浜 1-1-18 建設会館 3F  
TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : [shiga-sa@mx.biwa.ne.jp](mailto:shiga-sa@mx.biwa.ne.jp)



## 滋賀のヴォーリス建築 (第 7 回)

### 旧水口図書館

鉄筋コンクリート造 2 階建一部塔屋付き、約 7.15m 角の平面、延面積 109.5㎡の小規模な図書館である。昭和 3 年地元出身の実業家井上好三郎氏の寄付により建設された。

玄関のトスカナ式オーダーとその上部のレリーフから塔屋上のランタンに至るデザインが特徴。

撮影：甲賀市 清水一司

## CONTENTS

- ・「青年部会 特集」  
木の旅 大原小学校 5 年生総合学習 ..... 2 ~ 5
- ・研修旅行報告 ..... 6
- ・支部だより ..... 7  
湖東支部・湖北支部・湖西滋賀支部

- ・ 4 月の暦 ..... 8
- ・ 滋賀のヴォーリス建築

# 木の旅

大原小学校5年生総合学習(2007年度)

社団法人滋賀県建築士会青年部会

## 木の旅とは

2004年、米原市立大原小学校の校舎が改築されました。新しい校舎には地元の間伐材がふんだんに使われました。これらの木が、どこからどのようにしてここへ辿りついたのか。「木の旅」とは、校舎の木の流通経路を意味しています。その経路を探ることで、子ども達はさまざまな発見をします。

## 木の旅の目的

日本人は古くから家屋や家具、食器などに木を利用し、木とともに生活をしてきました。木は環境負荷も小さく、持続可能な資源です。先人は森や木の特性をよく知り、森を育てながら木を使っていました。こうした「木の文化」は近年の技術革新と経済至上主義により崩壊しました。国土の2/3を占める森林の概ね4割は人工林です。これらは田畑と同様、人が責任を持って守り育てていかなくてはなりません。しかし多くの森は手入れがいきとどかず悲鳴をあげています。私たちは高度な流通手段を持ち得なかったかつての時代を参考に、近くの山を保全しながら、木を積極的に利用していかなくてはなりません。

教材となる大原小学校の校舎は、地元である滋賀県湖北地域の山から伐りだした間伐材を多く使用しています。そこで学ぶ児童への「この木はどこから来たの?」という問いかけから、「木の旅」は始まります。子ども達は世界中の各地から集まった木を触り、香りを嗅ぎ分け、木の流通と建

築に携わる人々からのヒントを得ながら、答えを探します。

この旅を通じて、「森」と「木」と「建築」、そしてそれに関する「職業」への関心を導く。そしてこれらと深く関る「地球の環境」に思いを馳せる。これが木の旅の目的です。



手入れの  
いき届いた森



手入れの  
いき届いていない森

## 第一回「校舎ができるまで」

2007年11月21日(水)2時限目

懐かしい旧校舎の写真から授業は始まり、解体工事から新校舎の完成までの過程が紹介されました。工事は、現在の5年生が1年生のときに行われました。床・壁・天井に多くの木を使っていることが新旧の校舎の大きな違いであることや、それらの木に囲まれて気持ちが落ち着くなど、現在の校舎への思いを子ども達から聞きました。そして、これらの木はどこから来たのかという宿題を残して導入学習を終えました。



## 第二回「製材所で木にふれる」

2007年11月30日(金) 2~4時限目

協力:鳥居木材株式会社

**校**舎の木がどこからきたのかを辿る旅が始まりました。大原小学校の校舎に使われた木は製材所から運ばれてきました。「ならば製材所に行ってみよう」ということで実際にやってきました。そこには世界中から集まった多くの木がありました。

製材とは、原木を機械にかけ、柱や板といった建材に加工することです。子ども達はその流れを見学し、実際に手でふれながら様々な木を観察し、樹種や産地を覚えていきます。色や香り、年輪の間隔などから樹種を見分ける力は、私達を驚

かせました。そして、校舎に使われた木は近くの山の杉やひのきであることがわかりました。



## 第三回「夫馬の森で木にのぼる」

2007年12月10日(月) 1~4時限目

協力:滋賀県湖北地域振興局森林整備課  
滋賀北部森林組合

**校**舎の木が育った近くの森にやってきました。ここではまず、森林保全に携わる人たちから、「森のやくわり」と「森を守る」とはどういうことなのかを話していただきました。子ども達は枝打ちの意味を教わると、それと同じ手法で木にのぼり、森を守り木を育てる仕事を実体験しました。そして、間伐のいきとどいた明るい森とそうでない暗い森との違いを確認しました。その後訪れた森林組合では、間伐材の利用について勉強しました。森の保全のために間伐は必要で、その木を有効に利用しなければならないこと、そして大原小の校舎に使われた木も間伐材であることを知りました。



## 第四回「自分でつくる」

2008年1月17日(木)2~4時限目



これまでの授業を振りかえりながら、校舎の木がどこからどのようにして学校まで来たのか復習をしました。近くの山で伐られた杉やひのきの間伐材は森林組合や製材所を経由して学校まで辿りました。この日は大工の見習いとなって「つくる」ことを体験しました。子ども達はプロの技に驚きながら、自らも鉋がけや釘打ちに挑戦しました。くぎ抜きでは、最近理科で習ったというこの原理を確かめました。そして、間伐材を利用した木工もあわせて行いました。



また、これまでの総括として、近くの森の木を使う意味をもう一度考えました。



## 第五回「近くの森から地球の環境へ」

2008年1月25日(水)2時限目



近くの森の木を使うことはその森を守ることであり、地元の人のためでもあり、地球の環境を守ることにもつながります。身近なところに答えがあった「木の旅」の最終回は、近くの森と地球の環境との関係をひも解くというものでした。近くの森の木を積極的に利用していくことは、地球の環境保全と直結しています。それは流通手段の違いによって生ずるCO2排出量の差をみれば明らかです。難しいテーマではあるものの、子ども達の環境に対する関心は高く、細かい数値ですら熱心にメモをとっていました。そして、地球を守るために私たちが日常的にできることを話し合っただけの授業を終えました。

## 木の旅を終えて

この授業は今回で4年目となります。当初は児童の理解度を推しはかっていたのですが、子ども達の感受性は大人の想定を超えていました。五感と想像力をフルに使って本質を見抜く力は、私たち大人を上まわっているかもしれません。一方、「木の旅」の背景には、大人こそが立ち向かわなければならない危機が存在しています。私たち建築士は道を正す必要があります。そしてさらに多くの人々に「木育」を伝えていかななくてはなりません。



児童がまとめたホームページ(2004年度から抜粋)

## あなたの地域に伺います ～楽しい建築体験学習～

私たちが県内各地の学校・祭り・イベントにお伺いして、木のバズルづくりやペニアドームづくり等の教室を行います。

学校関係・諸団体による「地域の子供教育」や「親子のふれあい」にぜひお役立てください。お問合せは左記の事務局まで。

## 社団法人滋賀県建築士会青年部会

〒520-0801  
滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館3階  
TEL: 077-522-1615 FAX: 077-523-1602  
E-mail shiga-sa@mx.biwa.ne.jp

ホームページもご覧ください  
<http://www.kentikushikai.jp/>

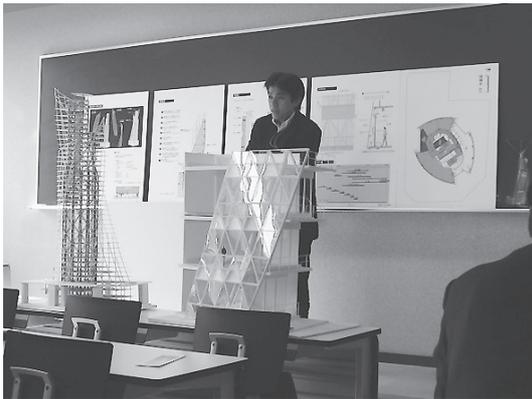


## 青年部会事業 研修旅行報告

2月22日(金)、23日(土)に青年部会事業の研修旅行で今春、名古屋駅前にオープンするモード学園スパイラルタワーズの見学を中心に愛知県に行ってきました。平日の出にくい中にもかかわらず、30名の方に参加いただきました。1日目はトヨタテクノミュージアム産業記念会館とモード学園スパイラルタワーズを見学。らせん状の外観とその構造が特徴的なスパイラルタワーズでは(株)日建設計と(株)大林組の方に設計コンセプトや現場の説明をしていただき、竣工間際の見学会ではありましたが、みなさんには最先端の建設技術に触れていただきました。夜の懇親会も、この日お誕生日を迎えられた荒谷雅美さんをお祝いするサプライズがあるなど大変盛り上がり、参加者の方々と親睦を深めることができました。



モード学園スパイラルタワーズ



日建設計担当者による概要説明



屋上ヘリポート見学！足のすくむ高さを体験



INAXライブミュージアム施設見学

2日目はINAXライブミュージアムと博物館「酢の里」を訪れ、INAXではタイルの絵付けを体験しました。また、まちづくり委員会の見学会とも合流し2日目も大変有意義な一日となりました。



タイル絵付け体験中



出来上がった作品

## 湖東支部

### 重伝建地区「伊根の舟屋群」への 日帰り研修旅行

3月1日(土)京都府伊根町への日帰り研修旅行を実施しました。伊根浦の舟屋群はその美しい景観と全国でも類例のない独特の歴史的景観を今に伝えており、平



参加者集合写真(舟屋の里公園)

成17年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。この地区は全国でも珍しい海域が地区に指定されています。

遊覧船での伊根湾巡りによる舟屋の景観の堪能、地元ガイドの案内で伊根浦の散策と舟屋内部の見学研修、そして伊根ぶりの食文化の味わいも併せて満喫しました。参加者は19名でした。



舟屋から海を



海からの舟屋群

## 湖北支部

### 湖北支部平成20年度通常総会のご案内

●日時：平成20年4月26日(土曜日)

●会場：グランパレー京岩

午後1時30分…受付

午後2時………講演会

「大地震に備えて伝統民家を

どう耐震改修するか」

講師 金沢工大・秋田県大名誉教授 鈴木 有先生

午後4時………長浜市都市計画課による長浜市景観条例・景観法の説明

午後4時20分…賛助会会員の方による商品PRタイム

午後5時30分…通常総会

午後6時30分…懇親会(会費 1,000円)



今年も恒例のビンゴゲームを計画しております。

※今年は総会に先立ち「伝統民家が大地震に備える仕組みとその耐震改修の考え方」をテーマに鈴木 有先生に講演をお願いしております。先の阪神淡路大震災以降一般県民の方は建物とりわけ、住宅に関する耐震・安全の問題について深い関心を持っておられます。又、地震活動も能登半島地震に象徴されるよう活動期に入ったことが新聞、テレビ等で繰り返し報道されています。耐震改修の考え方を学び、古い木造住宅の耐震化を考えることは、住宅(建築物)を地震災害から守ることに役立つと考えます。是非講演会からご参加下さい。

また、長浜市では新たに景観条例が施行されます。それに伴い景観計画区域内での届出が必要となります。長浜市都市計画課担当者の方より説明をお願いしております。是非とも参加下さい。

## 湖西滋賀支部

### 現代風長屋住民的な人の ふれあいを創る

私の住んでいる新興団地(と言っても20年経過しています)では、自治会組織があっても自治会館がなく、住民間でのふれあいの場がありませんでした。

今回やっと念願の自治会館を購入することになり、自治会役員会合の拠点として期待されますが、また住民間のふれあいの場になることをも期待しています。

このために、月に一度ふれあいサロンを計画し、内容は講演会と自前菓子飲み物で、楽しく勉強と懇談を行う場にしたと考えています。

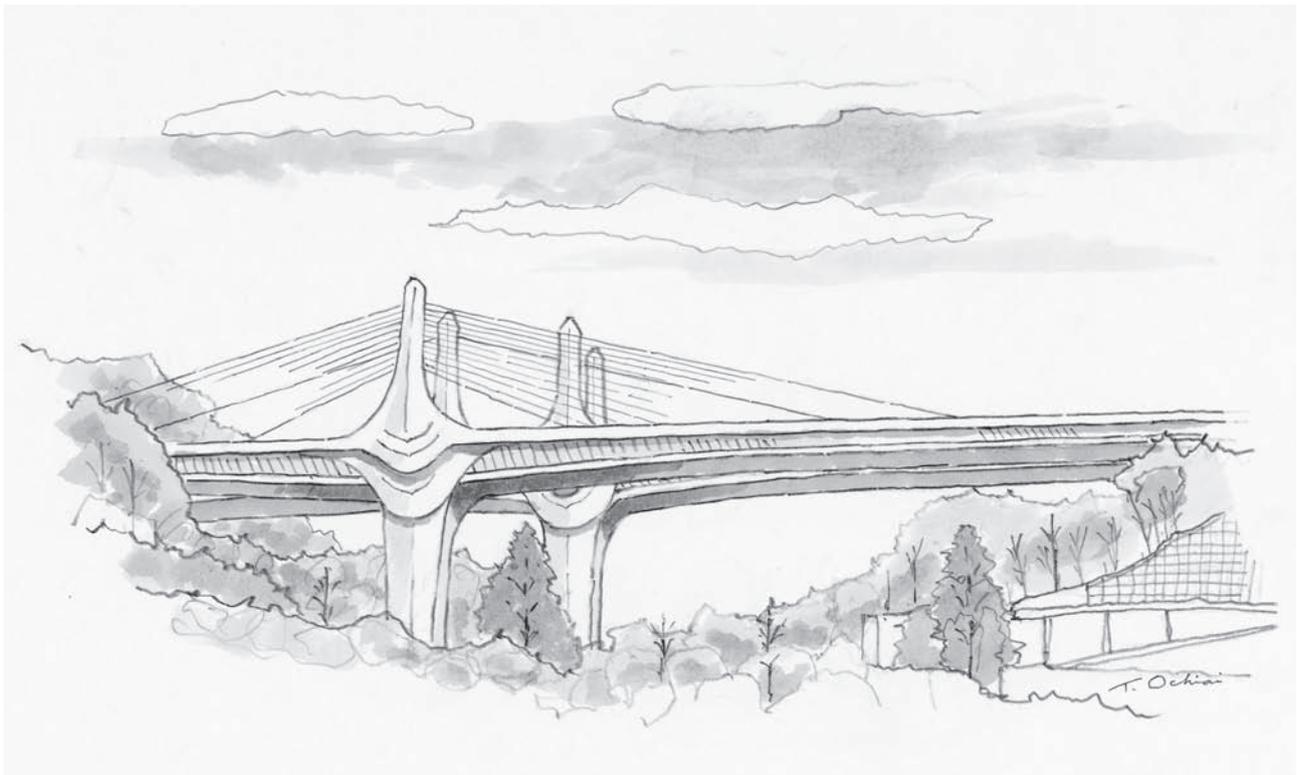
講演会の講師は住民全員が対象で、専門知識のある職業人ならその専門分野のお話でもいいし、主婦の方なら料理の得意談、失敗談など、全ての人は何か他人に話しができるものがあります。これを気楽に楽しく話することで、聞く人も楽しい輪が広がります。

これは、現代風長屋住民的な人のふれあいを作りたいとの想いから考えたことですが、現代人の風潮からは逆行しているようでもあります。付き合いはほどほどでプライベートの時間を大切にす個人主義生活が一般的な中で、どのように展開していくか判らない点もあります。

でも渴いた日々生活の中でウェットな人間関係の付き合いのひと時を過ごすことにより、生きている証が得られたらいいのと思っています。ウェットな心こそ最近の日本人が失ってしまったものの一つですから、取り戻そうということです。(N.M)

# 4月の暦

1	火	友引		11	金	友引	三役会 理事会	21	月	赤口	
2	水	先負		12	土	先負	近畿あーきてくと 2008	22	火	先勝	
3	木	仏滅	評議員会	13	日	仏滅		23	水	友引	
4	金	大安		14	月	大安	二級木造建築士試験受験申込受付 10:00~16:00	24	木	先負	
5	土	赤口		15	火	赤口	↓	25	金	仏滅	
6	日	先負		16	水	先勝		26	土	大安	
7	月	仏滅		17	木	友引		27	日	赤口	
8	火	大安		18	金	先負		28	月	先勝	
9	水	赤口		19	土	仏滅		29	火	友引	昭和の日
10	木	先勝		20	日	大安		30	水	先負	



この3月に開通した新名神高速道路に架かるユニークな柱塔、柱脚の栗東橋である。デザインはターニヤ ミルコックス（アメリカ）

落合輝夫

## 滋賀のヴォーリス建築

## 旧水口図書館（甲賀市水口町）

旧水口図書館は水口小学校の一角に昭和3年に完成した、地元出身の実業家井上好三郎氏の寄付（当時の建設費用 11,000 円）により町立図書館として建てられ、当時は1階を小学生閲覧室、2階を成人閲覧室兼会議室として広く利用されていた。

昭和45年の町立図書館新築移転に伴い小学校併設の教科書センター（保管庫）と変わり、その後は管理の手も入らず無残に朽ちてゆくばかりであった。

その後、「解体・保存」の議論が長年続いたのち、保存改修を望む地元の要望とヴォーリス建築の評価の高まりにより平成13年に国登録有形文化財の登録がなされ、翌年文化財として保存改修が行われた。塔屋上のランタンも一時は老朽化に伴い撤去されていたが今回の改修により復元され建設当時の姿がよみがえった。

玄関周りの柱・アーチ部の装飾、2階窓の小さなバルコニー、縦長の窓、上部の軒蛇腹などにこの建物の特徴がある、玄関から塔屋上ランタンまでの空にのび上がる意匠がこの建物の規模を忘れさせる。内部は縦長の窓から差し込む柔らかい光と高い天井の各室、ゆったりとした階段や隅々までデザインされた室内はヴォーリス建築の心地よさを今もなお体感することができる。

春の桜、夏の百日紅満開の時期は行き交う人もしばし眺め入る景色である。現在は市民の手で管理運営が行われ、一般の使用も可能である。（竹田久志）



玄関の装飾



2階展示室（旧閲覧室）内部